

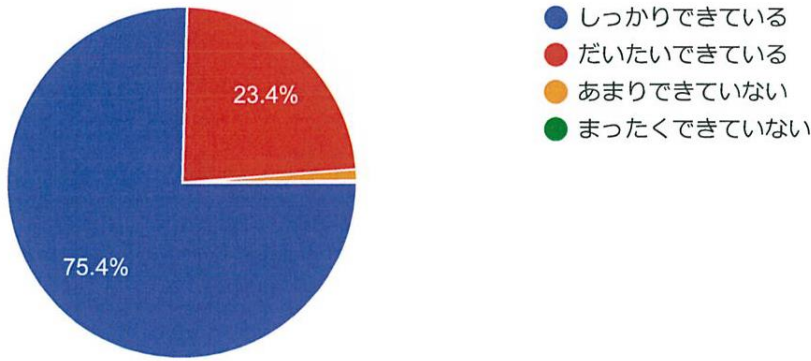
【休校中の教育活動（オンライン授業など）の紹介】

札幌第一高等学校

本校では、他校に先駆けた ICT の導入により、臨時休校となった当初から動画配信などを、いち早く開始し、テレビ会議システム（Google meet）を用いた、毎朝の SHR で生徒の健康状態の把握・連絡事項を行ってきました。特に、他校ではできないオンラインによる、授業動画配信などにより、シラバス通りの授業進捗が確保できており、生徒からのアンケート結果にも、その高い満足度が明らかになっています。

新型コロナ感染拡大防止のための臨時休校期間中は、「登校できないだけであって、タブレット（chromebook）により生徒と学校は繋がっている。対面でなければできないもの以外はすべての教育活動を進める。」との学校方針の下、様々な教育活動を行っています。

【臨時休校期間の教育活動】

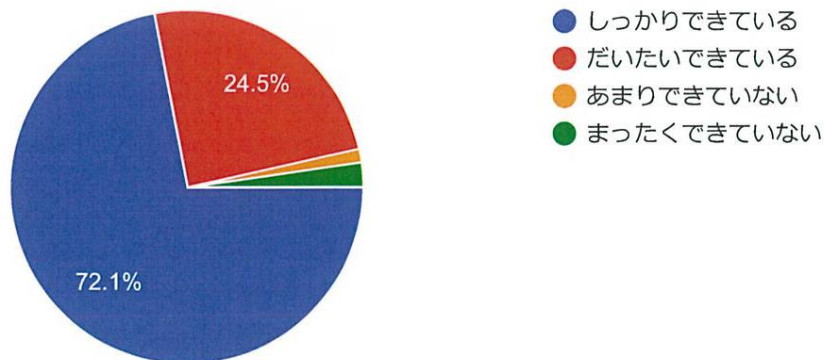
項目	教育活動詳細内容
朝の SHR	<p>全員で毎日（休業日を除く）朝 9 時より、テレビ会議システム（Google hangouts meet）を用いた SHR を実施しています。各担任が HR 教室にタブレット（chromebook）を持参し、生徒各自が自身のタブレットから指定の class room に入室すると、全員のタブレット画面にカメラを通して顔が映ると同時に入室者の名前が画面上に表示されます。担任が声をかけながら生徒の出席状況を確認します。その後、担任より連絡事項などを伝達し、生徒からの質問や確認事項などをチャット形式で画面を確認しながら担任とクラス生徒全員のやり取りを行っています。</p> <p>普段は 10 分程度の SHR ですが、長いクラスは 30 分近く行っているクラスもあります。</p> <p>臨時休校により生活リズムの崩れを防止することも狙いの一つとなっています。</p> <p>① Google Meet を用いた朝の SHR で必要な情報を知ることができていますか？</p> <p>1,008 件の回答</p>  <p>アンケートの結果では、98.9%の生徒が朝の SHR において必要な情報を知ることができていると回答しています。</p>

個人面談

臨時休校により学校に登校しておらず、外出自粛により自宅で過ごす時間が長いため、様々なストレスや不安を抱え精神状態が不安定となる危険性があると考えています。その精神状態を少しでも解消するため、2週間に1回程度の割合で担任と各生徒がテレビ会議システム（Google hangouts meet）で顔を見ながら、担任と生徒が1対1の面談を実施しています。また、必要に応じて保護者も含めた三者面談を行っています。

②個人面談において、必要な事柄について担任と話ができていますか？

984 件の回答



アンケートの結果では、96.6%の生徒が個人面談において必要な事柄について担任と話ができていますと回答しています。

授業

【1年共通時間割】（一例）

1年共通	月	火	水	木	金	土
1	数学 I A	英語共通	家庭基礎	国語総合(現代文)	数学 I A	数学 I A
2	英語共通	保健	物理基礎	生物基礎	現代社会	英語共通
3	国語総合(現代文)	数学 I A	英語共通	数学 I A	国語総合(古典)	
4	物理基礎	国語総合(古典)	現代社会	英語共通	英語共通	
5	社会と情報	生物基礎	数学 I A	体育	音楽/美術	

授業動画の配信は、各学年各コースの時間割を編成（最大週 27 コマ）し、通常の授業シラバスに則り、授業動画を配信（予定進度を確保）しています。

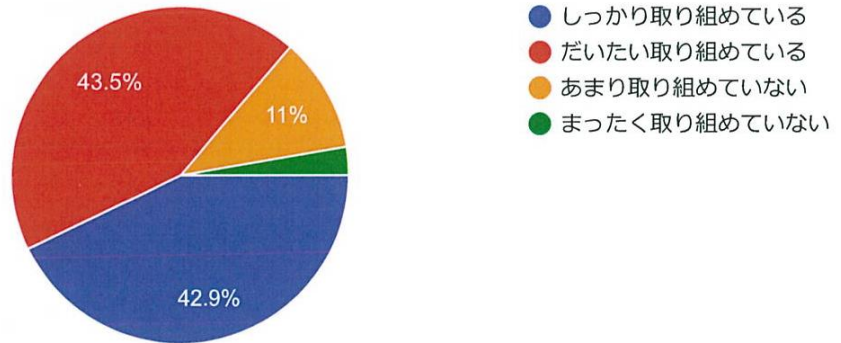
1コマ 50分を（前時復習動画 20分）＋（授業動画 30分）に分け、授業動画の視聴中・視聴後、質問をコメント欄に記入すると、教科担当者にすべてのコメントが集約されます。また、メールや電話にて対応も行っています、

教科担当者は、すべてのコメントに1件ずつ返信し、さらに多くの生徒からの質問を中心に、次回授業動画前 20分間に前時復習動画が配信され、質問回答を中心とする復習動画を視聴し、続いて次の授業動画を視聴することで（前時の復習）⇒（授業）がワンセットとなり、学習内容の定着が図られるよう工夫されています。

授業とは別に、1～2週間毎にターム分けし、各教科から学習課題が出されています。課題の郵送→回収のサイクルを続けています。

①5月11日以降の授業動画について授業動画を用いての学習にしっかり取り組んでいますか？

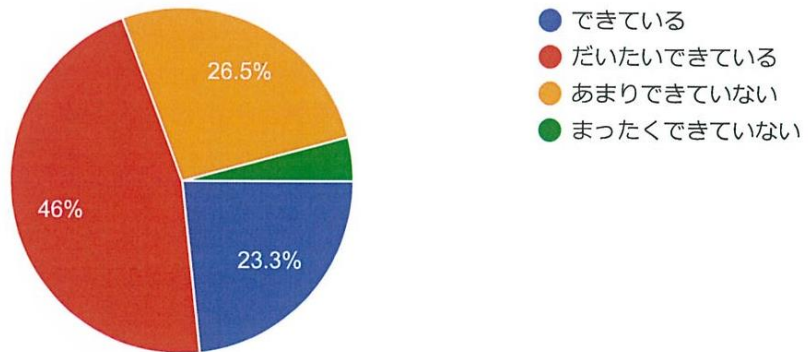
1,008 件の回答



アンケートの結果では、86.4%の生徒が授業動画を用いての学習に取り組んでいると回答していますが、全員が取り組んでいるとの回答になるよう更なる工夫が必要と考えています。

⑤授業動画だけでは理解不足な点などについて、質問して解決できていますか？

999 件の回答



複数のツールを利用した授業動画に関する質問を受け、それぞれに回答するとともに、質問の多い内容を中心とした復習動画を次の授業動画前に配信して定着を図っていますが、質問して解決できているとの回答が約70%となっています。これでは解決しないままになっているところがあるということですので、更なる工夫が必要と考えております。

課外講習

授業同様、オンラインによる講習を実施しています。

年間計画に沿って、1年生6月講習および2・3年生日常講習を、5月18日（月）からオンラインで開始しました。毎週月曜日・水曜日・金曜日に授業動画の終了時間に続き、オンライン講習1コマ目を16:00～16:50、2コマ目を17:00～17:50に設定して実施しています。

スタディ サプリ	<p>全学年、全生徒にスタディサプリを導入しています。学校単位での申込の場合、到達度テストを実施し、個々人の未定着部分が判定され、それに紐づいた推奨動画を視聴することができます。その視聴状況を教員が確認することができるため、担当教科に関わらず担任が学習アドバイスをすることができます。推奨動画ばかりでなく、基礎学習動画・応用学習動画・志望大学別実践動画など多くの動画視聴が可能であり、臨時休校中の学習にも十分活用することができます。</p>										
添削指導	<p>臨時休校にならなければ行っていた HUP による添削指導を予定通り実施しています。難関大学現役合格に向け、記述力養成を目的とした HUP50 プロジェクトの内、添削指導を 5 月 21 日（木）から開始しました。</p> <p>HUP50 プロジェクトの目的が難関大学現役合格であり、その指標としてベネッセより示されている「進研模試における学力指標 GTZ（3 教科）が概ね A1 以上」を対象としていますが、臨時休校期間中は全員に添削課題を送付し取り組みを促しています。</p>										
その他	<p>①学年主任による生徒へのメッセージ動画を配信するなど、ICT をフル活用して臨時休校中の生徒への指導を行っています。</p> <p>②生徒が用途に応じて選択できるよう複数の通信手段を確保し、生徒がためらうことなく相談できる環境を確保しています。</p> <p>⑥本校の授業動画を用いての学習の取り組みに満足していますか？</p> <p>1,006 件の回答</p> <div data-bbox="571 1249 1412 1601" style="text-align: center;"> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>十分に満足している</td> <td>36.7%</td> </tr> <tr> <td>だいたい満足している</td> <td>53.4%</td> </tr> <tr> <td>あまり満足していない</td> <td>8.7%</td> </tr> <tr> <td>まったく満足していない</td> <td>0.6%</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>アンケートの結果では、授業動画を用いた学習の取組に対して 90%以上の生徒が満足していると回答していますが、これですとせず、6 月 1 日（月）以降の臨時休校延長に際して、より生徒の満足度が上がるよう、また保護者の意識に関してもアンケートを実施することを考えています。</p>	満足度	割合	十分に満足している	36.7%	だいたい満足している	53.4%	あまり満足していない	8.7%	まったく満足していない	0.6%
満足度	割合										
十分に満足している	36.7%										
だいたい満足している	53.4%										
あまり満足していない	8.7%										
まったく満足していない	0.6%										

令和2年5月28日

【離れていてもひとつの音を目指して】 ～合唱部リモート合唱の試み～

札幌第一高等学校合唱部
顧問 安藤卓・平田稔夫

2月末からの休校以来、合唱部は4月上旬の数日間を除いて活動がストップしています。そのような中、4月の後半に部長やパートリーダーなどを務める2年生達からリモート合唱についての提案がありました。リモート合唱とは、部員各自が家庭で歌って録音し、それらの音源を融合してひとつの合唱にするというものです。家庭では歌えない環境にある生徒もいましたが、3月に中止になった定期演奏会で歌うはずだった「いのちの歌」を題材にして、多くの部員が練習に取り組みました。できあがった約30人分の音源は顧問がパソコン上でmixしてひとつの合唱にし、部長からのメッセージや昨年度の大会等での写真と合わせて動画の形に仕上げました。部員達からは、「離れていても一つの声になることがわかって感動した」、「自分の声を見つめ直すことができた」、「やっぱりみんなと一緒に歌いたい」などの声が聞かれ、よい活動になったと感じています。

今回、生徒達のアイディアでリモート合唱という活動を行うことができ、一人で歌い録音することでボイストレーニングの良い機会にもなりました。しかし一方で、個々の部員が別々に録音した音源は機械ではなかなかバランスよくひとつの声にはまとまらず、同じ場所で歌いお互いの音を聞きながら同じ空気を動かして音楽を作っていくという日常の練習そのものが音楽の本質であり、その過程で得られる技術の向上や一体感こそが音楽活動の醍醐味であることを再認識しました。生徒達も日常の何気ない練習自体が貴重な瞬間の連続であることを実感したようで、この経験が部活動再開後の音楽に表れればよいと考えています。

昨年全国大会に初出場させていただいたNHK全国学校音楽コンクールが中止になり、今は特に3年生がよい区切りをつけて次のステップに向かうために何が出来るかを模索しています。来年3月の定演が無事に開催され、そこで3年生を含めた今年度の部員全員での音楽を奏でることができるよう切に願っています。

なお、以下のURLから動画を視聴することが出来ますので、是非ご覧ください。

https://drive.google.com/file/d/1lb0yt0XwpAtCOF3WuQtZWYjpEN_aA7tu/view?usp=sharing